

市民文化会館自主事業実行委員会活動

岩手県 大船渡市

人口：41,398人

面積：323.28km²

担当部署：大船渡市民文化会館

概要

市民文化会館建設時に、設計内容や運営のあり方に関する検討の中心であった企画運営委員会の後を受け、開館後の運営の一翼を担うため、平成19年10月に新たに設立された市民参画型組織が、市民文化会館の自主事業について自ら企画・実施している。

選定理由

(岩手県コメント)

平成20年11月にオープンした大船渡市民文化会館の自主事業は、市民参画型組織が企画・実施することにより、利用者の目線からの意見や提案を積極的に取り入れながら、魅力ある展開が図られている。会館建設時の前組織を含めて、市民が文化会館の設計の段階から積極的に関わっている「協働」という面が評価できる。

背景

「みんなで市民文化会館を創る会」の結成

- 平成16年10月に、市民のさまざまな意見や要望を市民文化会館の基本設計に反映させるため、市民と設計者、行政の三者からなるワークショップ「みんなで市民文化会館を創る会」を立ち上げた。この会は、平成17年4月まで7回開催され、この間、設計者とともに模型作製やグループ討議、市内及び先進地の視察等を行いながら、市民文化会館の施設配置や館内の空間構成などについて検討した。

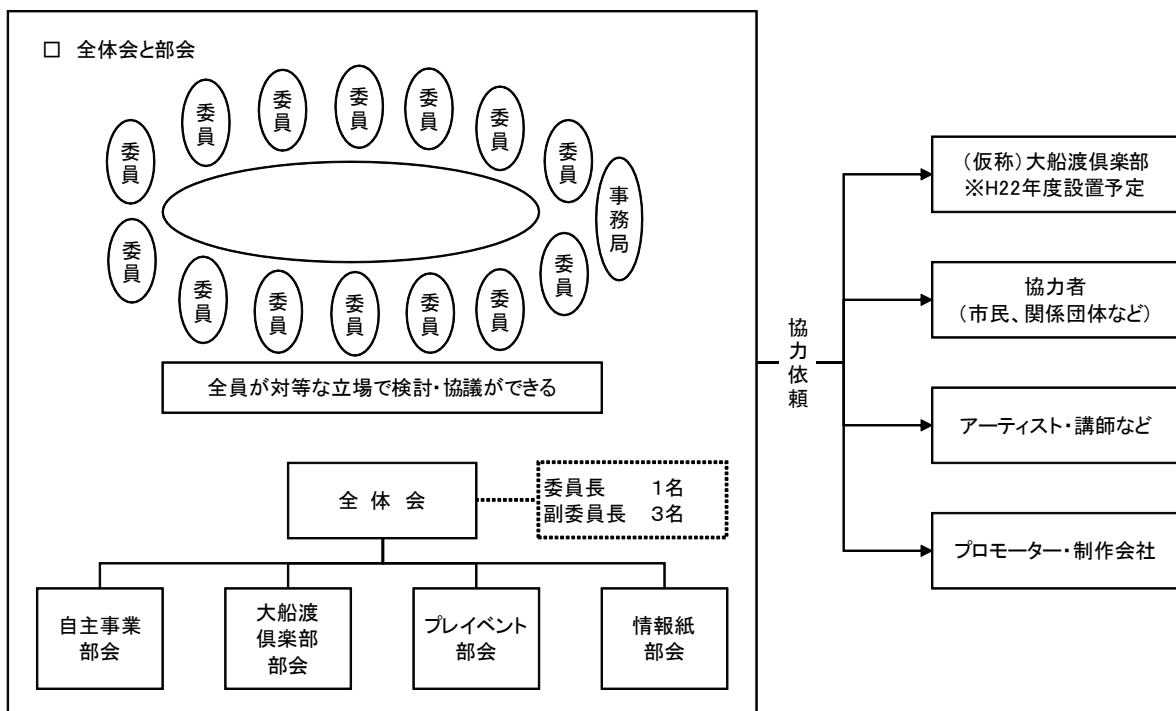
「市民文化会館企画運営委員会」の結成

- 平成 17 年 4 月に、設計内容における重要な部分での方向づけや管理運営のあり方などの検討を行うため、「みんなで市民文化会館を創る会」から発展的に「市民文化会館企画運営委員会」へ移行した。
- 委員会は一般公開とし、「創る会」参加者や公募等から選任された委員に加え、これまでと同様、できるだけ多くの参加を呼びかけながら開催された。
- 第 1 回から第 4 回までは、大ホールの舞台周りやファクトリー、図書館など設計内容の重要な部分について検討し、以降、最終回となる第 22 回までは、市民文化会館の管理運営に係る基本理念をはじめ、開館前の広報宣伝のあり方などについて検討するとともに、プレイベントを 3 回開催した。

「市民文化会館自主事業実行委員会」の結成

- 大船渡市民文化会館が行う自主事業の円滑かつ効果的な実施及び会館運営への市民参画を図り、もって協働によるまちづくりの推進に資することを目的に、前掲の「市民文化会館企画運営委員会」から移行して、平成 19 年 10 月 17 日に設置されたもので、現在、委員数は 25 名である。
- 平成 21 年 12 月 31 日までの会議開催数は 77 回を数える。
- 平成 20 年 11 月 15 日の開館前は、自主事業のあり方について検討するとともに、プレイベントを 2 回開催した。開館後には、自主事業の一環として、3 本の「お試し事業」を行った。平成 21 年 4 月からは、図書館とも連携しながら、鑑賞事業はもとより、芸術文化の普及や市民交流の促進につながる事業を企画・実施している。

【参考：自主事業実行委員会の目指すべき組織体制】



※上図の部会は、あくまで一例。実際には、皆で必要な部会について検討する。
 ※各部会で、部会長、副部会長各1名を選出し、検討にあたる。

具体的内容

平成 18～20 年度の活動内容

○イベントの開催

第1弾「はじめの一步!!大船渡市民文化会館模型展」

平成 18 年 7 月 30 日から 8 月 4 日まで、市内の商業施設内のオープンスペースを会場に、「みんなで市民文化会館を創る会」参加者が作製した模型をもとに、最終的に設計者が作製した模型を展示するとともに、それまでのワークショップの流れをパネルで紹介した。併せて、8 月 6 日には、設計者から模型を使って会館の説明をするとともに、「大船渡らしい文化とは？」と題し、市長、設計者、劇場コンサルタントによる座談会を開催した。

第2弾「みんなでペイントアート」

平成 18 年 11 月 12 日、市民文化会館・図書館建設地工事現場の仮囲い壁面に、武蔵野美術大学造形学部の協力のもと、大船渡市の将来のイメージ・風景・名所旧跡・市内に生息する動物・近海で獲れる代表的な魚など、大船渡に関するものを水性ペイント・ローラー・はけなどを使って描いた。

第3弾「映画上映会&現場見学会」

平成 19 年 6 月、より一層市民文化会館への関心を高めていくため、市民パワーの結集による地域の活性化をテーマとした映画「フラガール」（日本アカデミー賞最優秀作品賞受賞作品）の上映と建設現場の見学会を開催した。

第4弾「リアス・ウェーブ・フェスティバル」

平成 20 年 6 月、開館に向けてなお一層市民の盛り上げを図ることを目的に、主に市内で活動しているポップス系（フォーク、ロック、ジャズ等）バンド 10 組による「ライブ」と「フリーマーケット」を開催した。

第5弾「もうすぐ完成！リアスホール展&読み聞かせ・音楽・ダンス」

大船渡市民文化会館・図書館（愛称：リアスホール）の完成を控え、より一層市民の機運を盛り上げ開館後につなげていくために、平成 20 年 10 月 4 日から 5 日の 2 日間、市内の商業施設内のオープンスペースを会場に、これまで歩んできた軌跡や建設現場の様子を写真で紹介する「パネル展示」、図書館ボランティアによる「読み聞かせ」、地元で活動しているアマチュアの「ミニライブ」、ダンスサークルによる「フラダンス」を開催した。

○お試し事業の開催

お試し事業①キッズ・チャレンジ第1弾「リアスホール・アドベンチャー」

お試し事業②「おおふなとクラフトワーク展」

お試し事業③「おうちカフェ教室」



♡リアスホール・アドベンチャー



♡クラフトワーク展



♡カフェ教室

平成 21 年度の活動内容

○鑑賞事業

1,000 円でクラシック

クラシックの入門講座と質の高い演奏を廉価で提供し、クラシック鑑賞人口の増加を図ることを目的として開催している。

第 1 弾「牛渡克之ユーフォニアムリサイタル」(観客数：289 名)

翌日、市内吹奏楽部の中高生を対象に管楽器指導会を開催した。

第 2 弾「友田恭子ピアノリサイタル」

第 3 弾「山田恵子声楽リサイタル」

第 4 弾「森知英ピアノリサイタル」

(平成 22 年 1 月 23 日予定)

○対象別事業

絵本作家講演会&原画展

絵本作家宮西達也講演会(受講者:約 100 人)

絵本作家宮西達也絵本展

絵本作家宮西達也作品原画展

絵本作家宮西達也ワークショップ

(受講者：30 名)



♡ワークショップでの講師説明風景

○お試し事業

おいしい飲み物と音楽の午後事業

カフェ教室&ライブ第1回（カフェ教室：20名、ライブ：70名）

キッズ・チャレンジ事業

①キッズ・サイエンス教室（受講者：35名）

②キッズ・リアスホールアドベンチャー（参加者：83名）

③おおふなとクラフトワーク展（平成22年2月6～7日予定）

○単発連続型市民参加事業

リアス・ウェーブ・フェスティバル（参加者：1日目…627名、2日目…650名）

①ライブコンサート（10組出演）

②映画上映（7作品上映）

③フリーマーケット（21店舗出店）

④おもしろマップ・自主事業活動内容パネル展示

○ワークショップ事業

自主事業実行委員会向け舞台技術ワークショップ

第1弾 平台組立方法、ケーブルの巻き返し方法、マイク取扱い方法（受講者：11名）

第2弾 映画会場（座席配置、スクリーン操作幕の吊り方）の設営など（受講者：9名）

取組中の課題・問題点

- ・ 自主事業実行委員会メンバー（25名）で事業の企画・運営を行っている状況であるため事業を実施する上で人手が足りない状況となっている。
→ 自主事業実行委員会をサポートする組織を立ち上げる予定であるが、その方針が固まっていない。
- ・ 事業運営・制作を行う上でのノウハウがまだ足りない。
→ 月1回ペースで舞台技術ワークショップを行うことを目標にして、11月から事業運営・制作能力の向上を目指している。
- ・ ボランティアで参加しているため、委員会議・事業当日のスケジュール調整がつかないことが多い。
- ・ 大船渡市内の他団体とのスムーズな連携が、まだ取れていない。
→ チケット販売や周知について、他団体への協力要請を委員会議で提案されているが、うまく機能していない。
- ・ 実行委員会独自の予算を有していない（市単独事業で実施）ため、委員会独自で思い切った事業がなかなかできない。
- ・ 企画段階で時間をかけすぎるあまり、同じ映画上映を企画していた他団体に先行開催されたことがあった。

工夫点

- ・ 企画運営委員会設立時から事業の企画運営等をスムーズに行うために、コーディネーター（シアターワークショップ）を委託し、全般的な事業運営のアドバイスをいただいている。

効果

- ・ 自主事業実行委員は、「みんなで市民文化会館を創る会」から参加している人が多く、企画から実施に至るまで、みんなで協力し合いながら取り組み、参加者（来場者）からの感謝や賞賛の声を励みに、次の企画に向けて頑張るという流れができており、今や、本市において、協働のまちづくりの先導的役割を果たしている。
- ・ 単に鑑賞事業にとどまらず、芸術文化の普及・育成、市民交流の促進につながるようなさまざまな自主事業を企画・実施したことなどにより賑いの創出が図られ、大船渡市民文化会館と一体的に整備された図書館とを合わせて、1ヵ月あたり平均約2万人が訪れる会館となっている。

住民（職員）の反応・評価

- ・ 自主事業実行委員会で企画運営した事業に参加された方々からは、好評価と激励の言葉が寄せられており、それが委員全員の励みになっている。

フォローアップ

- ・ 自主事業実行委員会議を開催するごとに、その顛末（会議報告書）と次回の開催案内通知、欠席者に対しては前回の会議資料を併せて送付し、会議を欠席してもそこで話し合われた内容がわかるようにしている。
- ・ 自主事業実行委員会議開催の30分前に正副委員長（4名）会議を開催し、委員会の進行内容について打合せを行っている。
- ・ 各委員から提出された企画書をたたき台として、委員会で内容をつめている。
- ・ できるだけ個人の考えに偏らないよう班を編成して、内容をもむようにしている。
- ・ 事業終了後は、必ずその事業の課題・反省を話し合い、総括を行うようにしている。
- ・ 事業を行うたびにアンケート（参加者ニーズ等の把握）を実施して、住民ニーズを把握し課題や反省を次の事業に生かすようにしている。

今後の課題

- ・ より円滑に事業を運営するため、サポート団体としての(仮称)大船渡倶楽部の立ち上げや自主事業実行委員会の活動をタイムリーに周知する体制整備が急務である。

今後取り組む自治体に向けた助言

- ・ 市民文化会館のような集客力のある大規模公共施設の建設にあたっては、住民要望をできるだけ吸い上げ、反映させるためにも、住民との対話によるワークショップ形式で設計を進めていくとともに、開館後の利用促進の観点から、早い段階で住民による企画運営組織を立ち上げ、機運の盛り上げを図りながら管理運営のあり方などについて検討していくことが大切であると考えます。

アドレス

<http://www.city.ofunato.iwate.jp/rias-hall>